


その他使用医薬品（商品名でも可）

副作用等の発生及び処置等の経過

年 月 日  
2007 3 28

他院にて高血圧症（詳細不明）と、便秘症（酸化マグネシウムを服薬）で加療中の方です。  
3月27日夕に、37.8度の発熱と湿性咳嗽があり、28日に当院を初診なさいました。  
来院時（3月28日、午後2時）、体温39.0度、咽頭・胸部に所見無し。  
QuickVueラピッドSP influにて、インフルエンザ抗原A陽性（約2分で陽性と判断できました）。  
患者さんに説明の上、腎機能不明の高齢者ですので、タミフルは一日1カプセルに減量して処方しました。  
28日夜9時に家人より電話連絡を受けました。「メジコン、ムコソルバン、ブルフェンは服用したが、タミフルは飲んでいない。」（タミフルを飲まなかったことについては故意かどうかの判断は不明です。残薬数をみても、全く服用していない状態でした）  
さらに、家人の話では「さがし物をしてあちこちの棚を開ける。制止して臥床させても起き出して行動を始める。足はフラフラしており、さがし物をする手も少し震えていた。話し掛けても理解していない様子」と言っていました。  
それを聞いて思いだしたことは、患者さんは28日の受診時、感染予防のために渡したマスクの紐を右の耳に掛けるのにまごついていました。また、会計時、財布がどこにいったわからなくなり、医院のスタッフが介助しました。  
インフルエンザまたは発熱による譫妄状態（タミフルは使用していない状態での）と考えて、一晚様子を見ました。29日、[redacted]を受診。頭部検査・胸部レ線などを行いました。異常所見はないと判断されました。  
30日午前の家人の情報では、容態は落ち着いてきているそうです。

影響を及ぼすと考えられる上記以外の処置・診断：無・有

有りの場合→（放射線療法 輸血 手術 麻酔 その他【インフルエンザ感染症、発熱】）

再投与：無・有 有りの場合 → 再発：無・有

報告日：平成2007年3月30日 (受領書を送るのに必要ですので住所をご記入ください)

報告者氏名：[redacted] 施設名：[redacted]

(職種：医師) 住所：〒[redacted]  
[redacted]  
電話：[redacted] FAX：[redacted]

○報告者が処方医以外の場合 → 処方医との情報共有：有・無

○最も関連の疑われる被疑薬の製造販売業者等への情報提供：有・無

報告者意見